

浦町地区学校支援の取組について

～地域で支える浦町学区～



青森市中南地区学校支援地域本部 担当者：須藤 勉／浦町小学校、浦町中学校 コーディネーター：工藤知久子・熊谷真美子

学校や地域の概要

浦町小学校と浦町中学校は、青森市の中心部に位置し、学校、家庭、地域が一体となって日々積極的な教育活動に励んでいる地域です。また、学区内に市役所、市民病院、公園などの公共施設が充実しており、たいへん教育に適した環境といえます。

このような恵まれた環境の中、浦町小学校に学校支援地域本部を置き、浦町小学校と浦町中学校両校で活動をしています。

わが校のボランティア活動

わが校は今年度、図書ボランティアの育成に重点を置いて活動しています。4月から3回の講習会の実施、他校の読み聞かせ活動の見学等の勉強会を重ねてきました。

その後『読み聞かせボランティア』と『図書整備ボランティア』が発足し、9月より浦町小学校・浦町中学校の保護者や地域の方が集まり、活動をスタートしました。現在、読み聞かせは毎月1回、図書整備は毎月2回のペースで活動をしています。

図書以外の活動では、毎日地域の方々の協力を得ながら下校見守り活動をしたり、各学年の授業に応じたゲストティーチャーや講師の依頼、環境整備などを行っています。

コーディネートの実際

先生方からの要請を受けて、ゲストティーチャーの依頼、明の星高等学校音楽科によるミニコンサートの実施、校外学習や水泳教室の引率などをボランティアの方にお願いしました。これらをコーディネートするにあたり、4月にアンケートをとって作成した人材リストを活用したり、町会長、民生委員、PTAの方々との連携を取りながらボランティアをお願いしています。

二人のコーディネーターは元教員とPTA役員で、それぞれの立場からの見方ができ相談しながら活動をしています。

担当者・コーディネーターから一言

昨年10月から活動し始め、この事業について地域、PTA、学校と少しづつ理解と協力を得られるようになってきました。これからも、コーディネーターとしてボランティア活動の協力を一人でも多くの方にお願いしたいと考えています。



東青地区

青
森
市

わが校の主な活動

【1】図書ボランティア講習会（日時 平成21年6月18日実施）

講師に、長年高校の図書館事務を経験してきた小山内さえ子総括事務主幹を迎え、図書ボランティアの心構え、図書整理の基礎などの講義の他、本の修理の実習としてブックコートフィルムの活用の仕方を実践し指導していただきました。



【2】読み聞かせ講習会（平成21年8月28日実施）

講師に自ら読み聞かせボランティアとして活動されている秋田先生を迎え、読み聞かせの目的や、ボランティアが心がけるべきことなどの講義の他、本の持ち方や立ち方、暗幕の効果といった実践的なご指導をしていただきました。

秋田先生自ら何冊か読み聞かせの実演をしていただき、講習会参加者には自分で読みたい絵本を持参し、実際に読み聞かせをしながら、秋田先生の指導を受けました。



得られた成果

図書ボランティアの活動は始まったばかりなので、今後の活動の成果を待ちたいと思います。

子どもたちは読み聞かせをたいへん楽しみにしてくれるので、ボランティアの方々もやりがいを感じてスキルアップのための勉強を重ねています。図書の整備も継続していくことで、子どもたちが利用しやすい楽しい図書室になればいいと考えています。

今後の課題と展望

- ・ボランティアの高齢化。
- ・団塊の世代のボランティア探し。
- ・より多くの方に活動を知ってもらい、ボランティアの輪を広げること。
- ・公共機関の活用ネットワークを広げること。

金沢小、学校支援の取組について

～地域で支える金沢小学校～



青森市中南地区学校支援地域本部 担当者：須藤 勉／金沢小学校 コーディネーター：伊藤 尚三

学校や地域の概要

金沢小学校は青森市の西南部に位置し、昭和30年代後半から40年代にかけての児童数の急増とともに新設された学校であり、昨年度ちょうど40周年の節目を迎えた。学区は学校を取り囲むように造成された住宅地であり、ここ10年間の児童数は600名前後で極端な減少傾向は見られません。

創立15周年の時に掲げたスローガン「燃えろ金沢の子」は、明るく元気で一生懸命がんばる姿を求める子ども像としたものです。

わが校のボランティア活動

本校では、図書支援として図書室の本の整理と補修、そして一年生対象の「本の読み聞かせ」を行っています。これは地域のボランティアの方々が週1回のペースで来校しています。学習支援として中学年は、学習補助支援、高学年は手芸クラブ支援、そして放課後にはミニバスケットと野球部の指導ボランティアなど活発に行われています。

また、地域ボランティアの活動として、春に校庭内の桜の樹の剪定、夏には遊具の塗り替えがありました。また、防災訓練では、学校と地域の人たちとの交流で今年度も無事終了し、計画どおりの行事を実施しています。

コーディネートの実際

地域で学校支援をすることに関して大事なことは、学校からの要望を的確に把握し、PTA活動及び地域のパワーを多いに活用することだと思います。そのためには、まず現在実施されている活動を整理し、それを基本としながら、それに要望事項やできることを付け加えていけば良いと考えます。

実際には地域子ども会の会長や町会長と連携し、学校を居場所とした子ども教室の開催、学校周辺の地域町会へボランティア活動の広報を配布しながら、協力者の発掘、支援を求めていく形を今後もとつてきたいと思います。

担当者・コーディネーターから一言

最初は何から始めて良いかわからず右往左往しましたが、校長先生と先生方のご協力の下、少しづつではありますが進むことができています。今後も皆様の意見を参考にしながら、学



東青地区

青森市

校支援活動につなげたいと考えています。

わが校の主な活動

8月30日（日）、大野地区社協主催の防災訓練を金沢小学校で行いました。

今年で3回目となる訓練も企画から会場準備、参加児童の募集と学校と地域の間をとりもち無事終えることができました。

地域の人達に避難場所としての認識が少しづつ浸透してきました。

8月22日（土）校庭内の遊具を子ども会野球部（南金沢スピードスター）の保護者の方たちにより塗装され、きれいになりました。

2学期直前の作業でしたが、児童たちはきれいな遊具で元気に遊んでいます。



得られた成果

子どもの諸活動にボランティアが入ることにより、学習理解が深まるとともに安全確保につながっています。樹木の剪定や遊具の改修、さらには側溝の泥上げなど、職員の日常業務ではとても手が回らない環境面の整備がかなり充実してきました。

学校を内側から見てくれる保護者や地域住民が増えてきたように思われます。何かあつたら味方になってくれる人がたくさんいると言うことは、学校にとって極めて心強いことであり、精神的な安定につながります。ひいては子どもの心の安定につながっていくことだと思います。

今後の課題と展望

今年度からの事業実施なので、まだ問題はありませんが、今後継続して必要なことは、学校が地域にとって開かれた、行きやすい場所になるように、また関係者が協力し情報交換をしやすい環境になるように、コーディネーターは活動していきたいと思います。

戸山地区学校支援の取組について

～地域で支える戸山の小・中学校～



青森市戸山地区学校支援地域本部 担当者：須藤 勉／戸山西小学校・戸山中学校 コーディネーター：成田 有子

学校や地域の概要

・学校紹介

戸山地区は小学校・中学校が各1校ずつで、小学校卒業生がそのまま中学校へ進学します。そのため小・中の連携は欠かせません。

・地域紹介

戸山地区は30年程前にできた新興団地で、教育熱心な保護者が多い地域ですが、最近は働いている人も多くなってきています。団地内に格安スーパーができ、地域外からたくさん買い物客が地域内に入っているため子どもたちの防犯と交通安全には、特に気を配る必要があります。

わが校のボランティア活動

- ・小学校では、すでに読み聞かせや図書ボランティアでは保護者が自主的に熱心な活動をしていました。4年生へのパソコン指導助手募集では多くの応募があり、保護者の熱心な関わりがあることがわかります。
- ・学習支援のボランティア募集をしたところホームページ作成や、新刊図書パソコン入力などの申し込みがありました。

今年初めて企画した「学校をきれいにしようよ」では、野球のバックネットの基礎やサッカーのゴールポストのペンキ塗り、空き部室や家庭科室の清掃など、学校生活環境を整えました。文化祭では戸山中保健委員会からの要望で、「早寝・早起き・朝ごはん」の事業を企画し、学校支援地域ボランティアの協力で『おかず味噌汁の試食会』が行われました。

コーディネートの実際

- ・今年度スタートした事業なので、先生方やPTAに地域本部を知ってもらうことに重点を置きました。
- ・他校での取組などを掲載したチラシ、小学校版・中学校版をつくり先生方全員に配布しました。
- ・学校からの要望を企画する際、提案した先生とは直接打ち合わせを行い、チラシなどの作成に生かしました。



東青地区

青森市

担当者・コーディネーターから一言

先生方は忙しく、何でも自分でやってしまったほうが早いと思っているように見受けられます。しかし、せっかくコーディネーターがいるのだからもっと活用してもらえるよう、来年度に向け事業提案などを書いていこうと考えています。

わが校の主な活動

「学校をきれいにしようよ！」（戸山中学校）

学校とPTAの要望で企画・実行した「学校をきれいにしようよ！」は、長年気になっていたが、なかなか実行できなかつた箇所の清掃を一氣に行うことができました。

今は使われていない部活動の部室は、たくさんのゴミが詰め込まれていて、トラック2台分にもなりました。

家庭科室の清掃は、子どもたちの調理実習の際の拭き残りが積み重なっていて、それを落とすのが大変でした。



サッカーのゴールポストと野球のバックネットの基礎ペンキ塗りでは、すっかりサビてしまっていた所のサビを落とすことから始まり、三重塗りをしました。

さすがに一日では終わらなく、指導してくださったペンキ屋さんが、次の日にボランティアで全て仕上げてくださいました。

この事業はPTAのみへ呼びかけましたが、当初考えていた程ボランティアは集まりませんでした。

しかし、協力してくださったペンキ屋さんのバックアップがあったおかげで実施できた事業でした。



得られた成果

- 子どもたちが気持よく学校生活や部活動ができ、今はまだ見えませんが、やってくれた人たちへ感謝の気持ちが芽生えることを期待しています。
- 今まで、なかなか手をつけられなかつた所がきれいになり、感謝されました。
- たとえ素人のボランティアでも、プロのアドバイスがあればできるという実感を持つことができました。

今後の課題と展望

- 呼びかけに対し、どうしたらたくさんのボランティアは集まってくれるのか。
- どうしても推進本部の所在校の事業に偏りがちになるので、そのようなことがないように、連絡を密に取り合わなければと思っています。

三内西小地区学校支援の取組について

～みんなが喜んでくる三内西小学校～



青森市西北地区学校支援地域本部 担当者：須藤 勉／三内西小学校 コーディネーター：出崎 真里



昔ばなしをテーマにしたおはなし会。郷土館の協力を得て、昔の道具を紹介しました。

学校や地域の概要

三内西小学校は、昭和60年に創立され、現在は15学級444名（10月現在）の児童が在籍しています。校庭は、沖館川リバーランドに隣接し、三内丸山遺跡までは徒歩15分という体験活動にも恵まれた地域です。沢部地域は児童館、丸山地域には丸山子ども会が存在し、古くから、子どもたちをみんなで育てていこうという意識があります。また、隣には三内中学校、近隣には、保育園や幼稚園があり、連携をとることで、様々な活動の可能性があります。

わが校のボランティア活動

三内西小学校では、以前から下校時の見守り、絵本の読み聞かせの活動が行われていました。また1学年生活科「昔のあそび」、学区探検の補助等も地域の方々や保護者が積極的に関わっていました。昨年から、この事業がスタートしたことにより、さらに活動が拡がり、収穫祭でのもちつきの指導、スキー学習のサポート、点字体験の指導、授業で使用する図書の選定等を実施しています。10月15日には「学校支援ボランティア養成講座～図書補修編～」を行い、コーティングシートを傷んだ図書に（または傷まないように新刊に）かけて補修する方法を学んだので、今後は、このような活動も展開していきたいと考えています。

コーディネートの実際

先生方には、可能なボランティアのメニューを配付してありますが、日常の中で、できるだけ先生方とコミュニケーションをとるように心がけています。ボランティア募集については、各家庭にお知らせを配付したり、町会の回覧板を使って、広く呼びかける場合と、コーディネーターが個別に連絡をしてお願いする場合があります。前者の場合、PTA役員や町会長に説明をして、紙面だけではなく声掛けをお願いしています。後者の場合は登録シートの情報を基にあたってみたり、地域活動をしている方々から情報を得て、紹介してもらうこともあります。

担当者・コーディネーターから一言

PTA、地域の方々の協力を得ながら事業が展開されています。みなさんとのちょっととした雑談から、アイデアが生まれることも多々あり、コーディネーターは孤立せず、いろいろな人々と交流、情報交換の場をつくっていくことが大切であると実感しています。

わが校の主な活動

4学年の国語の教科書には、「手と心で読む」というページに点字が出てきます。最初、先生からのボランティアの依頼は、点字に関わる図書の選定でした。しかし、読み聞かせの



東青地区

青森市

グループが担当して活動しているうちに、点字図書館（青森県視覚障害者情報センター）では、図書の貸し出しだけではなく、視覚障害者が使用する道具や簡易点字器もお借りすることが可能であるとわかりました。そして、タイミング良く以前から点字のボランティアをされている方が、学校支援ボランティアとして登録しているので、先生方と「実際に点字を打つことを体験できたら・・・。」という話になりました。ボランティアの成田さんに相談をしたところ、気持ちよく引き受けてくださいり、先生方と打ち合わせをしながら準備をすすめました。



当日は、3時間目に1組、4時間目に2組と、クラスごとに行いました。成田さんは、自己紹介と共に、点字との出会い、日頃の活動の話をしてくださいり、その後、簡易点字器の説明。そして、「め」の字や「あいうえお」等から打っていき、後半は、各自、自分の名前にチャレンジ！という流れでした。

慎重に、一つ一つ確認しながら打ってみる子、次々と打っていく子・・・と様々でしたが、どの子どもたちもとても真剣な表情でした。

子どもたちからは、「点字器を最初に見た時、小さな穴がたくさんあって、びっくりした。紙を挟んで点筆で打つ時、穴が見えなくてわからなかったけれど、ちゃんとできたので嬉しかった。」「成田先生のお話で、目の不自由な人は点字のある場所を知らないことがあるとわかった。もし困っている人がいたら教えてあげたい。」「点字に興味が出てきた。もっと勉強してみたい。」等の感想が寄せられました。また、早速、お母さんと点字図書館に出向いた子どももいたようです。「小学生の子どもたちに話をするのは初めて・・・。」と話していた成田さんですが、とてもわかりやすい言葉で説明してくださいり、そして、子どもたちとの会話を楽しんでいる姿が印象的でした。

得られた成果

子どもたちにとってみれば、実際に点字器にふれるということは、大変貴重な体験でした。そして、成田さんの実体験を含めたお話は、福祉に関心をもつききっかけにもなったことだと思います。先生方からも「このような体験活動は、子どもたちの学習をより深めることができるので、ぜひまたお願いしたい。」という感想をいただきました。また、成田さん自身も、「初めての経験でしたが、子どもたちとふれあって、とても楽しかったです。」と話してくださいました。今回に限らず、地域の方々と子どもたちが出会い、繋がっていくことは、子どもたちの健やかな成長、地域住民の生きがい、安心安全なまちづくり等にも結びついていくことだと思います。

今後の課題と展望

今回は、時間的な余裕もなかったため、成田さんのサポートをコーディネーターが担当しましたが、今後はボランティア同士の交流も図り、サポートし合える体制も必要であると思いました。また、西小まつりに合わせて『ボランティア交流会』を企画したところ、参加者は少なかったのですが「校長先生とお話ができたとてもよかったです。」という声をいただきました。今後は事業の展開と共に、お互いに顔が見える関係をつくっていくための交流の場も考えていきたいと思います。

油川地区学校支援の取組について

～ゆるやかに歩みを始めた油川地区～



青森市西北地区学校支援地域本部 担当者：須藤 勉／油川小、西田沢小、油川中 コーディネーター：柿崎 哲男・柿崎 正

学校や地域の概要

- ・油川地区は青森市の北西部に位置し、小規模校の西田沢小学校と大規模校の油川小学校、そして両校の地域から生徒が通う油川中学校で構成されています。油川小学校の児童は全員油川中学校へ進学しますが、西田沢小学校の児童は油川中学校と北中学校と進学先が分かれています。
- ・国道280号線のバイパスが開通してからは、上磯方面を往来する交通手段として自家用車の量が格段に増えています。

わが校のボランティア活動

- ・油川地区は、今年度7月から学校支援本部事業が始まりました。個々にボランティア活動をしている方はいますが、それほど活発な活動にはなっていないのが実状です。そこで、少しでも活発な活動にするために、活動の分野や内容を示すことにより、これなら自分にもできそうだ、やってみようかな、という意識を醸成できるのではないかと考えました。
- ・「やれることを、やれるときに、やれるところから」取り掛かり、細かなことでも、実際にやったことをボランティア通信で紹介することにより、意識の高揚を図りながら、ボランティアの輪を広げていこうと考えています。

コーディネートの実際

- ・個々人が、ボランティアとして申込書を提出して登録するのには大変な勇気が必要です。それに対して、親しくしている友達に誘われるとか、知っている人を介して話がいくと、意外にあっさりと引き受けたりするものです。
- ・したがって、本校では当初チラシを配布してのボランティア募集から始めましたが、今は、何人かの協力者を中心に据えて、人から人へというルートでの人材の開発に比重をおいて、ボランティアのスタッフを広げています。

担当者・コーディネーターから一言

- ・油川地区はPTAの皆さんと既に学校支援に取り組んでいることも多く、今後は地域の支援者の発掘に取り組んでいきたい。また、西田沢小は油川中と北中に分れて進学するため、その特性を把握しながら事業を進めていきたい。



東青地区

青森市

わが校の主な活動

【1】ペンキ塗りボランティア

10月7日、遊具（うんてい、ジャングルジム）のペンキ塗り作業を行いました。リーダー格の館田さんの指導を受けながら、慣れない手つきで刷毛を握りました。うんていの横棒は赤、白、青、黄の4色を交互に塗った方がよいとか、ジャングルジムの一番上は赤にした方がよいとか、それぞれに知恵を出し合って作業をするうちに、ペンキを塗る手つきもスムーズになってきたように見えました。ジャングルジムは時間がかかりそうだ、という当初の予想どおり、遊具の中に入つての作業が多く、悪戦苦闘が続きました。2日がかりで仕上げる予定でしたが、明日は雨との予報なので、昼食を食べた後も続行し、風が冷たくなってきた夕方、ようやく全作業終了。一人一人の顔に安堵感がにじんでいました。本当にありがとうございました。



【2】安全ボランティア

学校からの要請により、正門前が車の出入りと登校中の子どももが交差して危険であるということで、安全を確保するためにボランティアを募集して、正門前についてもらうことにしました。工藤さんは、もともとは図書ボランティアで申し込んでいたのですが、希望者がいないと聞いて、快く依頼に応じて下さり、感謝でいっぱいです。



得られた成果

- ・さまざまな色に塗り直されたジャングルジムやうんていに子どもたちが群がり、嬉々として遊んでいる様子を見るにつけ、ボランティアとしての活動がまさに学校支援につながっているのだとの思いを強くしています。
- ・学校としては、現場が年々忙しくなっている昨今、ボランティアが入ることによって、教育本来の活動に専念する時間的ゆとりが生まれ、教育活動をより充実したものにできているようです。
- ・ボランティアの方々は、それぞれに自分が携わった活動の評判を聞いたり、子どもたちの様子を見たりすることを通して、満足感を抱いているようです。

今後の課題と展望

- ・油川小、西田沢小、油川中を担当していますが、学校間の温度差は如何ともし難いものがあります。次年度は、本事業に意欲的な学校に絞って、重点的に進めた方がよいのではないかと考えます。
- ・ボランティアとしての申し込みをしてくださった方々が、次年度も協力してくれるように誠意を持って対応したいと思います。

地域みんなで学校支援

～みんな一緒に学校へ行こう～



平内町学校支援地域本部 担当者：逢坂 重良／東小学校 コーディネーター：岡本 守

学校や地域の概要

平内町立東小学校は明治10年第14区清水川尋常小学校として創立され、その後合併統合を経て、昭和44年に現在の校名に改称した歴史と伝統のある学校です。地域住民の教育に対する意識が高く、創立当初から学校に対しては惜しみない支援をしてきた地域です。

学校区は町の東部の海岸線を有し、ホタテ養殖を中心とする一次産業と、それを加工する水産加工場が集中して立地するホタテ産業の盛んな地域です。また、内陸部は稲作を中心とする兼業農家が多く、子育て世代は隣接する青森市や野辺地町などへ通勤しています。

わが校のボランティア活動

☆登下校見守りボランティア 子どもたちの登下校時の不審者やクマ対策として安全見守り隊を結成しました。

☆環境ボランティア 花壇の整備、雪囲い、草刈などの環境整備のお手伝い

☆部活ボランティア 放課後における野球・卓球の部活指導

☆行事ボランティア 学校行事（運動会・陸上競技大会・野球大会・卓球大会・学習発表会・ふるさと交流会）への支援活動

☆学習ボランティア 校外学習のサポートや体験学習（サツマイモ栽培等）の指導

コーディネートの実際

- ・学校への支援者の募集は地域の人材を生かすため、地区の町内会や老人クラブ、婦人会などに呼びかけました。
- ・支援者が学校に来やすいように打ち合わせ日を毎月「6日」に設定し、支援内容や予定について話し合っています。
- ・学校の行事「ふるさと交流会」には学校支援ボランティアのブースを設け、学校や保護者、地域の人への情報発信の場としています。
- ・学校支援ニュースを発行し、活動を広報しています。

担当者・コーディネーターから一言

コーディネーターの岡本さんは人と人を繋ぐのが非常に上手です。チラシや広報でもなかなか応募者がなかった支援者を、一人ひとり足を運んで集めてきました。そして、今はその



東青地区

平内町

人の輪が60人以上になっています。

わが校の主な活動

【1】サツマイモの収穫

6月16日に農協女性部を中心とするボランティアの人たちの指導のもとに植えたサツマイモの収穫を11月9日に行いました。大きなイモと一緒に丸々と太ったネズミもでてきて大騒ぎとなりました。

多くの人達の協力を得てたくさんのサツマイモが採れました。

今度の「ふるさと交流会」では地域の人たちと一緒に食べることにしています。

【2】学校支援の「見守り隊」発進！

P T Aのグリーンのパトロール隊と学校支援のブルー「見守り隊」が子どもの登下校を見守ります。

不審者やクマの出没にそなえ、子どもたちが安全に学校に通えるように一緒に歩きます。

P T Aの方とお互い声をかけながら協力してこれからも継続していきます。



ボランティアの人と一緒に



得られた成果

「見守り隊」を結成したことにより、学校の登下校が安全になり、見守っている大人たち自身は学校や子どもに興味を持ち始めました。また、ボランティアの人たちが「6の日」には学校に必ず来るという習慣ができて、学校が地域に近い存在になってきています。

少子高齢化や共働きのため日中仕事に出る保護者が増え、P T Aの学校行事への参加数が減少している今、逆に子どもを取り巻く危険は年々増えています。

子どもたちを守っていくためには学校や親だけでは無理があり、地域全体で子どもを守り、育んでいくシステムの開発としての学校支援は有意義なものとなりました。

今後の課題と展望

「見守り隊」に代表される学校支援ボランティアは地域で子どもを育むきっかけになればいいと思います。学校と地域が少しずつ距離を縮め、地域の人が一人でも多く学校に入っていけるそんな環境づくりが本事業であり、継続することが大事になってきます。

学校応援団 @かにた

～応援団員全員集合！！～



外ヶ浜町蟹田地区学校支援地域本部 担当者：三上 豊／蟹田小学校 コーディネーター：沼田 瞳子・荒武 智子

学校や地域の概要

外ヶ浜町蟹田地区は外ヶ浜町の最南端にあり陸奥湾と津軽海峡に面した、第一次産業を中心とした海と山と川の美しい自然豊かなところです。

蟹田小学校は、昭和後期より段階的に統合が進み、4校が1校になったため、学区も幅広く距離もあるためスクールバスが運行されています。

伝統的にこの学校は地域との交流をとても大切にしている、学校支援ボランティアを積極的に活用しています。

わが校のボランティア活動

蟹田小学校では、水泳教室での監視、理科の授業でのヘチマ栽培の棚づくり、夏休みには、地域の木工クラブ（木タクラブ）による椅子の修繕等のボランティアが行われています。

また、社会の授業では、「まち」を知ろうということから、施設を訪問したり、畠見学では地域の農家におじやまして、忙しいにもかかわらず、細部にわたり説明していただいている。

その他、学校の環境整備、図書の修繕、キー教室の補助等が行われています。

コーディネートの実際

地域の各種団体、サークルと連絡を取り合い、お願いしやすい環境づくりに努めています。学校においても、担当の先生と連絡を密にし、ボランティアの要請にはできるかぎり対応するようにしています。

また、参加したボランティアの皆さんとの人の輪を活用した人材の発掘に努めています。

担当者・コーディネーターから一言

たくさんの人と関わり地域と人づくりに参画でき、すてきな出会いと、機会に巡り会える事はすばらしいことです。

これからも、いろんな人たちと新しい出会いができれば素敵です。



東青地区

外ヶ浜町

わが校の主な活動

◇農家見学（3年生）

社会科で農家見学のリクエストがあり、地域の専業農家にお願いし、見学訪問することになりました。

露地栽培のにんじん畑では広大な農地をどのように管理しているのか、ハウス栽培については定植時期や作物名・作業の状況など丁寧に説明していただきながら、身近な野菜がどのような作業を経て育成するのか、エピソードに触



れながら生産者に聞くことができました。

苗や肥料の説明、また農作業で使用する機械には作業ごとにたくさんの種類があることを実物を前にしてわかりやすく説明していただきました。

31名の児童は目を輝かせて、「どんなことに気をつけていますか？」など次々に積極的に質問し、時間の経つのも忘れるぐらいでした。この経験により、農家の苦労と喜びを少しでも理解できたらしいなと思います。



得られた成果

核家族が進む中、いろいろな世代の地域の方々との交流は、子どもたちにとっても楽しみになってきているようです。

学校では、いろいろなボランティアを受け入れることにより、地域の方々の協力を気軽に利用するようになりました。

ボランティアにとっても子どもの学びに協力できることに、自分の生きがいを感じ、積極的に参加するようになりました。

今後の課題と展望

ボランティアの分野が硬直化しているので、様々な学校支援の分野を学校と連携を密にしながら開拓していく必要があります。

また、地域には、まだまだたくさんの人材（宝）がねむっていると思われますので、ボランティアの輪の拡大に努める必要があります。

我が校の学校支援活動

～あせらず、おごらず、楽しく～



外ヶ浜町平館地区学校支援地域本部 担当者：北田 信道／平館小学校 コーディネーター：齊藤 勲

学校や地域の概要

- ・**学校紹介** 平成6年に2校統合した当時は、平館小学校の児童数は100名を超えていましたが、年々減少し続けて現在は全校生徒64人の小さな学校です。広大な敷地に平屋建ての校舎で、版画の盛んな学校です。
- ・**地域紹介** 津軽半島のむつ湾に面した北の一帯で、半漁半農の地域です。前は海、後は山と自然豊かな土地であり、近年は過疎化が進行しています。国道280号線に沿って、自治会が点在しています。

わが校のボランティア活動

—自校の活動の実態—

- ①読み聞かせ……………月1回第2水曜日昼休み 夏休みには図書整理
- ②部活支援……………野球部及びミニバスケット部への実技指導
- ③庭木の手入れ……………春、秋各1回
- ④校庭及び校舎の周りの草刈り…日常的に校舎の周辺を巡回し、草刈り等
- ⑤ふるさと研修……………授業に活かすため、夏休みに教職員の研修
(詳しくは、次頁で説明しています)

コーディネートの実際

保護者たちの中から読み聞かせを学校でやりたいと希望があり、学校とコンタクトを取り、学校の了解を得て実施して、たいへん好評です。

部活動支援の野球は顧問の手助けを行っており、ミニバスは、子どもたちに多く活動させるために、父母が立ち上がり、その中から指導者が生まれて活動しています。

植木の手入れ、ふるさと研修については、学校側の希望によりボランティアを探して行っています。

担当者・コーディネーターから一言

今まででは、学校と住民との直接的な交渉により結びつきができていたと考えます。この事業が終わったとしても、その結びつきが薄れていかないようにしていきたいと思います。



東青地区

外ヶ浜町

わが校の主な活動

◇ふるさと研修

今は、車社会。ほとんどの先生たちが車で通勤しています。従って自分の勤めている場所がどんな所か、どんないいものがどこにあるのかなど知らないことが多いようです。

そこで先生たちから、平館をもっと知りたいとの声が上がり、学校支援地域本部に連絡があり、コーディネーターに依頼がありました。そこで学校側と打合せをして、主にどんなことを知りたいのかを聞き、平館ロードマップを作り先生方の希望するものや平館の名所や外ヶ浜町の文化財などを書き入れ、「しおり」をつくり見学する簡単な説明を入れました。

当日は、夏休みを利用して行い、ほとんどの先生方が参加して見学をして回りました。先生方は、熱心に説明を聞いていたようです。その研修で学んだことをふまえて授業に取り入れ学習を行っているようです。



得られた成果

- ・先生方が平館地区の良さを改めて見直してくれたこと。
- ・後日、学年で見学場所を学習の場に活用したこと。
- ・ボランティア活動が少しずつであるが、行われてきていること。
- ・学校側も少しずつ理解をしてくれて、協力をして要望を出してきてくれるようになりました。

今後の課題と展望

- ・学校側の要求がまだ少ないようなのでPR活動に努めたいと考えています。
- ・これを機会に先生方が地域のことを理解し、地域の行事などに顔を出して地域の方とふれあいを持つことによって連帯感が生まれ、保護者だけでなく一般の方のボランティアが増えればよいと考えます。

地域で支える学校支援ボランティア

～元気にはつらつ～



外ヶ浜町三厩地区学校支援地域本部 担当者：柳谷 隆男／三厩小学校 コーディネーター：平井 郁代

学校や地域の概要

外ヶ浜町立三厩小学校は、過疎化に伴い児童数は69名ですが、津軽海峡を見渡せる高台にあり、元気いっぱいの声が聞こえる明るい学校です。

平成17年3月28日、三厩村は蟹田町・平館村と合併し外ヶ浜町となりました。三厩地区は津軽半島の最北端に位置し、漁業の盛んな港町です。

わが校のボランティア活動

4月から始動し、5月は校庭整備・廃品回収・アルミ缶・ベルマーク協力を実施しました。6月は参観日の際の託児協力。9月は校庭整備・トイレのペーパーホルダーの手作り。全校チームワーク遠足の通行を安全に誘導する活動・道徳公開研修授業に参加した方の車の誘導などの活動をしました。

コーディネートの実際

先生方が忙しいため、学校に伺うのに気が引けてしまうことがあります。

また、自分自身がPTA会員なので気がつくことがあるものの、気を遣うこともあります。ボランティアの方々となるべく普段から交流するようにしています。

担当者・コーディネーターから一言

学校と地域がより連携できるようにコーディネーター共々、努めていきたいと考えます。学校内で先生方と対話する機会を定期的に実現できればと思っています。



東青地区

外ヶ浜町

わが校の主な活動

5月の校庭整備の様子です。

ボランティアの方々に対し先生やPTA会員、子どもたちが気持ちの良いあいさつを交わし合い、和気あいあいと楽しそうに作業をしていました。



6月の全校参観日の様子です。

就学前のお子さん連れの保護者がゆっくり安心して授業参観ができるように、託児のボランティアをしている様子です。



得られた成果

ボランティアの方々が学校に行くことによって、子どもたちの顔や名前を覚えて、お互いに笑顔であいさつすることが多くなりました。

また、学校からボランティア登録者に学習発表会の招待状が届き「子どもたちの可愛い頑張る姿に感動した」との声も聞かれており『子どもは地域の宝』という形ができあがってきました。

今後の課題と展望

児童数が減少し続ける中で、学校と地域がより綿密に連携することが重要であると思われる所以、コーディネーター、担当者等がその架け橋となり、ボランティア登録者がやりがいを持って参加できる体制を作り上げたいと思います。

子どもたちの持っている力をより伸ばす学校支援

～学校と地域と子どもたちとの信頼関係を大切に～



今別町学校支援地域本部 担当者：川村 一樹／今別小学校 コーディネーター：工藤 清子

学校や地域の概要

平成12年4月、今別小学校、大泊小学校、開智小学校の3校が統合して、新生今別小学校が誕生して10年。本校は、校訓（強く、正しく、明るく）のもと、地域に開かれた学校を目指して様々な教育活動を展開しています。

今別町は、津軽半島北部の中央部に位置し北は津軽海峡に面しています。

平成20年度から学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子どもたちを育てる体制づくりに努め、将来を担う子どもたちを支援する活動が盛んです。

わが校のボランティア活動

- ・3年～6年生対象の毛筆指導
- ・1、3年生の生活科授業「町内探検」の引率サポート
- ・荒馬保存会による伝統芸能の継承指導
- ・読み聞かせサークル「こでまりの会」による絵本の読み聞かせや昔遊びの伝承
- ・婦人会による花壇づくり、草刈り等
- ・おやじの会や男性の協力による草刈り、プール清掃等

子どもたちが心豊かに育ち学ぶ環境を地域全体で支援し、自らのいきがいづくりとなり、地域ボランティアの輪となるような思いで活動しています。

コーディネートの実際

- ・学校との連携を密にし、依頼されやすい人間関係づくりを目指しています。
- ・支援活動の際には、学校側から支援者を紹介してもらっています。
- ・支援活動の記録写真を活動者の方に差し上げています。
- ・「毛筆指導」は先生と共同で進められており、きめ細かな指導により上達も目覚ましく、また、あいさつや姿勢など規範意識の向上にもつながっています。
- ・活動終了後、公民館でお茶を飲みながら労をねぎらう場面を作っています。

担当者・コーディネーターから一言

コーディネーター：子どもたちの笑顔、先生たちの笑顔、ボランティアの人たちの笑顔をもっともっとたくさんの人たちと共有したいと思います。

担当者：この支援活動が長続きするよう無理のないようにコーディネーターとともにやっていきたいと考えています。



東青地区

今別町

わが校の主な活動

小学校校長を退職された方による毛筆指導は筆の持ち方や姿勢、漢字の由来、昔の歌、地域の昔話を交え、厳しいながらも楽しく進められています。良いところはどんどんほめ、子どもの持っている力を十分に伸ばしてやるきめ細かな指導により目覚ましく上達しています。子どもたちの講師の先生に対する礼儀もきちんとしています。講師の先生に子どもたちから感謝の色紙がプレゼントされるなど、「子どもたちと会うのが楽しい」と先生も大喜びで、元気・生きる力をもらっているようでした。



読み聞かせサークル「こでまりの会」が月2回読み聞かせを中心に、コマ回し、ビー玉、お手玉などの昔遊びの紹介から、かるた大会なども企画し、子どもたちがふれあうことの少ない昔遊びの伝承や、昔の地域の写真を見せ、場所を当てるなど、地域への愛着ややさしさを大切に活動しています。

また、子どもたちも読み聞かせ後の感想、感動した場面、興味深かった場面のことを積極的に発言してくれます。本を読むことの大切さ、聴くことの心地よさと安心感を伝えていきたい思いで、月1回の定例会ではテーマを決めての絵本選びや練習に励んでいます。

生活科の授業では、どんな建物や施設があるかを調べるために町内探検があり、引率ボランティアをしました。出会う人に大きな声でいさつし、ボランティア隊と一緒にになって町の新たな発見をしたり、説明を聞いたり、安全・危険箇所の確認をしました。外に出て、自然に触れ、人に触れるところなど元気がでるのかと感心し、今まで知らなかつた町のことを、たくさん発見できました。



得られた成果

- ・子どもたちに授業に対する意欲、やる気が育ってきています。
- ・子どもたちに地域の方への感謝や協力が感じられるようになってきています。
- ・子どもたちに本を読む習慣がついてきています。
- ・学校外でも地域の人とのふれあいが深まっています。
- ・ボランティアの方は子どもたちから元気をもらっています。
- ・ボランティア活動の価値を見いだし、自分の意欲、生きがいとなっています。

今後の課題と展望

未来を担う子どもたちを育てようという意識を共有してもらい、活動者が意欲を持って活動できるように活動後の振り返りを行って支援者との意見交換をしていきたいと考えます。

P T A会員に学校支援ボランティアの存在をもっと理解してもらい、共同で進めていく体制づくりを進めていくことが必要だと考えます。

地域みんな学校の応援団!!

～さて、何ができるかな。できることから始めよう～



今別町学校支援地域本部 担当者：川村 一樹／今別中学校 コーディネーター：山内 和子

学校や地域の概要

4年前は115名だった今別中学校の生徒数が今年度は52名と半減しました。同様に保護者家庭数も47家庭と大幅に減少しています。平成5年に新築された校舎と外庭はよく整備されています。伝統芸能を継承し「今別中学校荒馬」に全校生徒で取り組んでいます。スポーツ面では、県内でも数少ないフェンシング部を設置している中学校です。校訓は自主、協同、明朗。町唯一の中学校です。

今別町は、津軽半島の先端部に位置し、青い海と緑に包まれた豊かな自然環境に恵まれた町です。

わが校のボランティア活動

朝のあいさつ運動から始まり、花植え、草取り、美術、書道、ネブタ指導、読み聞かせ、アルミ缶回収、文化祭調理手伝い、そして「おいしいボランティア」として、しどぎ餅作り、芸術鑑賞と続きます。改めて、見廻すと人材や指導者にはとても恵まれていることに気付かれられます。

また、新しい取組として、文化祭食堂の食券前売券の販売ボランティアも実行しました。出足が遅かったので売上額は少額でしたが、次年度は工夫して売上げアップにつなげたいです。

コーディネートの実際

毎回、ボランティア活動だけでは申し訳なく思っていました。そこで、学校開催の「芸術鑑賞」や「性教育講座」等機会あるごとに参加していただき、楽しんだり、学んだりする場の提供にも心がけています。ボランティアの方は一人暮らしや二人暮らしが多く生徒を見る目が優しく、我が子や自身の幼い時と重なるのでしょうか。それが学校支援ボランティアの原動力となっているように思えます。少子高齢化が県内一進んでいる今別ですが自分達が地域で何ができるか考え行動していくことが、今一番大切であると痛感しています。

担当者・コーディネーターから一言

コーディネーター：小さな地域なのでボランティア同志が顔見知りです。しかし、ボランティア活動を共にすることにより、より親密さを増したのは相乗効果だと思います。

担当者：この支援活動が長続きするよう無理なくコーディネーターと共にボランティアに来てくれる方を大事にしてやっていきたいと考えています。



東青地区

今別町

わが校の主な活動

美術指導 今別在住の画家、小嶋さんの指導の美術の時間では、季節の果物や海の貝がらを題材に授業を進めていきます。

生徒には手を取りながら教え、時には冗談を言い合ったり生徒たちも気軽に疑問点を聞き、和気あいあいとした授業風景です。もちろん教師はついていますがゲストティーチャーにお任せして生徒への個別指導に回っています。地域の人材を活用することで画一的な授業から自由な発想や雰囲気を楽しんだり、学んだりできるのは素晴らしいことだと思います。その中で信頼関係が築かれたり、この体験が相互に人として成長していくのだと実感させられる授業風景でした。



以前から、今別中生徒が継続している「あいさつ運動」にボランティアが加わることにより、明るく張り合いのある運動になったと思います。より多くの人間が関わるということは、いろんな意味で刺激になります。

あいさつに関わる生徒は主に野球部員です。部活動で声を出しているだけあってとても元気です。

ボランティアの方も、その元気に刺激されて、大きな声であいさつしています。中学校前には、バス通学のため小学校児童も集まっています。その時はボランティアの方も特にニコニコして一段と声も明るく、賑やかになります。こういう場面に出会えるのもボランティアに関わっているからこそと思えるひとときです。

おはようございま～す！　いってらっしゃ～い！



得られた成果

朝のあいさつ運動では、以前から続けている生徒によるあいさつ運動と並んで実施していて、生徒と地域の方々との触れ合いの場ともなり、生徒に良い影響を与えています。また、学校前を通行する方から生徒の挨拶の良さについて町議会でも取り上げられました。支援ボランティアにゲストティーチャーとして美術授業での指導を得て、生徒の作品への取組や成果に格段の違いが見られました。今中祭での食堂の調理や片付けへの協力を行うことによって、保護者が舞台発表を鑑賞しやすくなりました。

今後の課題と展望

PTAの行事などへ地域の方の積極的な協力や参加を得て、大きな力となっています。

しかし、これまで、PTA会員が中心となって進めてきたことにPTA会員の参加が少なくなってきた状況があり、今後もこの傾向が続くという予想の中、ますます学校支援ボランティアへの要請が増えていくことでしょう。

ボランティアによる家庭以外での子育て

～子どもたちに多くの人と出会い、多くの体験を～



蓬田村支援地域本部 担当者：小野 寛敬／蓬田小学校 コーディネーター：奥村智恵子

学校や地域の概要

村内に創立された4小学校が、昭和47年蓬田小学校1校となりました。平成15年度からの5ヵ年で、木材をふんだんに使った校舎の新築と、全面芝生のグラウンドの整備を行い、現在は児童150名が、のびのびと教育活動を送っています。通学範囲が村一円であることから、多くの児童が登下校にスクールバスを利用しています。部活動も熱心に行われていて、野球・ミニバスケットボールの各部は県大会出場を果たしています。

本村は青森県北西部、津軽半島の東側陸奥湾沿岸に位置して、基幹産業は、農業と漁業の第一次産業です。野菜づくりも盛んで、桃太郎トマトの名産が知られています。漁業の中心はホタテの養殖です。

わが校のボランティア活動

- ・蓬田村スキークラブによる、3～6年生対象のスキー教室への技術指導協力
- ・蓬田村老人クラブとの昔の遊び体験学習（ふれあい体験活動）
- ・蓬田村老人クラブによるグラウンド芝生の草取り
- ・地元の読み聞かせ団体「赤いとまと」による、絵本読み聞かせ
- ・軟式野球部・ミニバスケットボール部指導
- ・スクールバス停の修理および清掃と、スクールバス停での登下校安全指導

コーディネートの実際

コーディネーターは、地元出身の小学生の保護者です。小学校のPTA関係者にも顔見知りが多く、連絡・調整が取りやすい立場にあります。

またコーディネーターの活動場所が蓬田村教育委員会であることから、委員会内の事業担当者とのスムーズな連絡・連携が可能になっています。

担当者・コーディネーターから一言

コーディネーター：少しずつではあるが、村内にも学校支援ボランティア活動が認められていると同時に浸透してきていると思われます。これからもボランティア活動の意義をPRしたいと考えています。

担当者：信頼される学校づくりと、この事業が地域づくりに貢献することを心がけて今後も事業展開を続けていきたいと考えています。



東青地区

蓬
田
村

わが校の主な活動

【1】スキー教室（平成21年2月9日・19日）

毎年3～6年生がモヤヒルズスキー場で、スキー教室を実施しています。（3・4年生と5・6年生がそれぞれ一日）その際、蓬田スキークラブが技術指導のボランティアを担当してくれています。

学校のグラウンドの経験はあるものの、多くの児童にとって、広いスキー場でスキーをする経験は初めてでした。最初は恐る恐るスキーに乗っていた児童も、指導員の指導を素直に聞いて実践することにより、急速に滑走技術が向上していました。教室の終盤では、笑顔でスキーをしている児童が多く見られました。



「スキーの楽しさが分かった。」「またスキーがしたい。」という児童の声が多く聞かれました。スキーを指導したスキークラブのメンバーからも「スキーの指導を通じて、子どもたちの一生懸命取り組む姿が印象的だった。」という言葉をもらいました。

【2】ふれあい体験活動（昔の遊び体験）（平成21年2月5日）

蓬田村老人クラブ指導のもと、1・2年生を対象にふれあい体験活動（昔の遊び体験）を開催しました。体育館の各ブース（竹馬・けん玉・メンコ・おはじき・駒回し・竹とんぼ・あやとり・縄ない）に児童が集まり、講師の指導のもと自分の興味のある体験を行いました。



児童にとって日頃馴染みのないものが多かったでしょうが、講師の「おじいちゃん」「おばあちゃん」から遊び方を教えてもらいながら、一緒に楽しんでいました。この中で、縄ないには多くの児童が参加しました。足で縄を押さえながら熱心に縄を編んでいる姿は大変ほほえましいものでした。講師も自分の孫に教えるような優しい眼差しで児童に指導していました。

得られた成果

- 学校支援ボランティアとの交流により、児童は家族や学校関係者以外の大人と今以上に接する機会を多くもつことができました。
- 学校支援ボランティアの協力により、児童は教室の中だけでは得ることのできない多くの体験ができました。
- 学校支援ボランティアの活動が、学校便りの発行を通して保護者を始めとする地域住民に理解してもらいました。

今後の課題と展望

地域住民の協力のもと、学校支援に関わる多くの活動をすることができました。今後も小学校の要望に応えるために、村民に対するこの事業の周知を続けるとともに、ボランティア協力者の数を増やしていくきたいと考えています。

学校を支える地域との輪

～「蓬田村の踊り」を子どもたちに伝える～



蓬田村支援地域本部 担当者：小野 寛敬／蓬田中学校 コーディネーター：奥村智恵子

学校や地域の概要

蓬田中学校は昭和22年に創立された村内唯一の中学校です。小学校も一校であるため、この特性を生かして地域・家庭・学校が一体となった教育活動の推進に努めています。

現在は生徒85名が「自立」「協同」「勤勉」「友愛」の校訓のもと充実した教育活動を送っています。自分に与えられた物事に積極的に取り組む生徒が多く、学業や部活動では好成績を修めています。

本村は青森県北西部、津軽半島の東側陸奥湾沿岸に位置していて、基幹産業は、農業と漁業の第一次産業です。野菜づくりも盛んで、桃太郎トマトの名産が知られています。漁業の中心はホタテの養殖です。

わが校のボランティア活動

- ・部活動指導（野球部・バスケットボール部・バレー部・陸上部・卓球部）
- ・学習支援活動（総合的な学習の時間）「蓬田音頭」の指導。
- ・環境整備（施設・備品などの補修、清掃等）中学校の破損箇所の修理

コーディネートの実際

コーディネーターは、地元出身の中学生の保護者ですので、中学校のPTA関係者にも顔見知りが多く、連絡・調整が取りやすい利点があります。またコーディネーターの活動先が蓬田村教育委員会内であることから、委員会内の事業担当者とのスムーズな連絡・調整が可能になっています。

担当者・コーディネーターから一言

コーディネーター：少しずつではありますが、村内にも学校支援ボランティア活動が認められると同時に浸透してきていると感じられます。これからもボランティア活動の意義を積極的にPRしていくたいと思っています。

担当者：信頼される学校づくりと、この事業が地域づくりに貢献することを心がけて今後も事業展開を続けていきたいと考えています。



東青地区

蓬
田
村

わが校の主な活動

◇ 「蓬田音頭」の指導（平成21年5月18日）

以前であれば、小学校・中学校の運動会、各地区の盆踊りでは欠かせなかった「蓬田音頭」。最近では、少子化・高齢化により各地区の盆踊りも開催されなくなり、学校の運動会等でも踊る機会が全く無くなってしまいました。

「このままでは蓬田音頭を踊れる人が村からいなくなってしまうのではないか。」という話を聞いた学校側が、

“村に伝わる文化の継承”を目的に、平成20年の運動会から蓬田音頭をプログラムに取り入れました。



今年度も運動会で披露したいと中学校からコーディネーターに要望がありました。指導する当日は、蓬田村連合婦人会から4名が来てくださいました。

生徒は学年ごとに輪を作り、指導者の踊りの見よう見まねで蓬田音頭の練習に取り組みました。

昨年踊ったはずの2・3年生も最初はぎこちない踊りでしたが、練習が進むにつれて、堂々と踊っている3つの輪ができていきました。



運動会当日も生徒は立派な踊りを披露しました。運動会を見に来ていた方々も途中から飛び入り参加し、練習の時よりも更に大きな輪になって踊っていました。

生徒に「蓬田音頭」を受け継ぐことができて大変良かったと考えている。また、地域活性化の一要素になることも分かり、充実した取組となりました。

得られた成果

- 学校支援ボランティアとの交流により、生徒は家族や学校関係者以外の大人と接する機会をもつことができました。
- 学校支援ボランティアの協力もあり、校内環境が整備されました。このことにより、生徒は落ち着いた環境で学校生活を過ごすことができました。
- 生徒が蓬田村の伝統を受け継ぐことができ、同時に、「蓬田音頭」が地域の活性化のきっかけの一つになることが分りました。

今後の課題と展望

地域住民の協力のもと、学校支援に関わる活動をすることができました。今後も中学校の要望に応えられるために、村民に対するこの事業の周知を続けていき、また、中学校に対する学校支援ボランティアの件数を増やしていきたいと考えています。